

## 21. 森林インストラクターをめざして（第2報）

安代営林署 葛西 貢治

### 1. はじめに

近年、自然環境に対する関心は、地球規模で深まっており、自然における代名詞的存在である森林に対する国民の要請は増大する一方である。

そして、週休2日制が定着しつつある現在、街には4WD車やキャンピングカーが目立ち、週末には自然を求めて海へ山へ向かう人々が増えている。

また、全国各地でリゾート計画が打ち出され、ゴルフ場やスキー場を初め各種リゾート施設の建設が行われている。

アウトドアブームの到来である。

こうしたなかで、森林レクリエーションに関する施設及びそれを指導するインストラクターの需要は増大する一方であり、国有林の「森林インストラクター制度」に対する要請も高まっている。

しかし、森林インストラクターの活動の理念や理論が未成熟であるとともに、森林インストラクターとして対応できる職員の不足、系統的な人材の育成など、そのシステムを確立するに至っていないのが現状である。

安代営林署では、平成元年度より、担当区主任を中心に植生調査を行なうなど、フィールドワークを通じて森林インストラクター養成に乗り出した。

また、森林インストラクターとしての活動マニュアル「安比高原」No.1・No.2を作成するなど、森林・林業に関する総合的な面での調査を行ない、活動を展開してきた。

本発表では、平成2年度から平成3年度まで2年間の活動を振り返り、森林インストラクターの活動の理念や理論を確立させるとともに、「森林インストラクター制度」のシステム確立をめざすものである。

### 2. 管内の森林レクリエーション

安代営林署管内では、八幡平国立公園や安比高原スキー場を中心とした八幡平地域総合森林レクリエーションエリアに指定されている地域があり、森林レクリエーションのメッカとなっている。

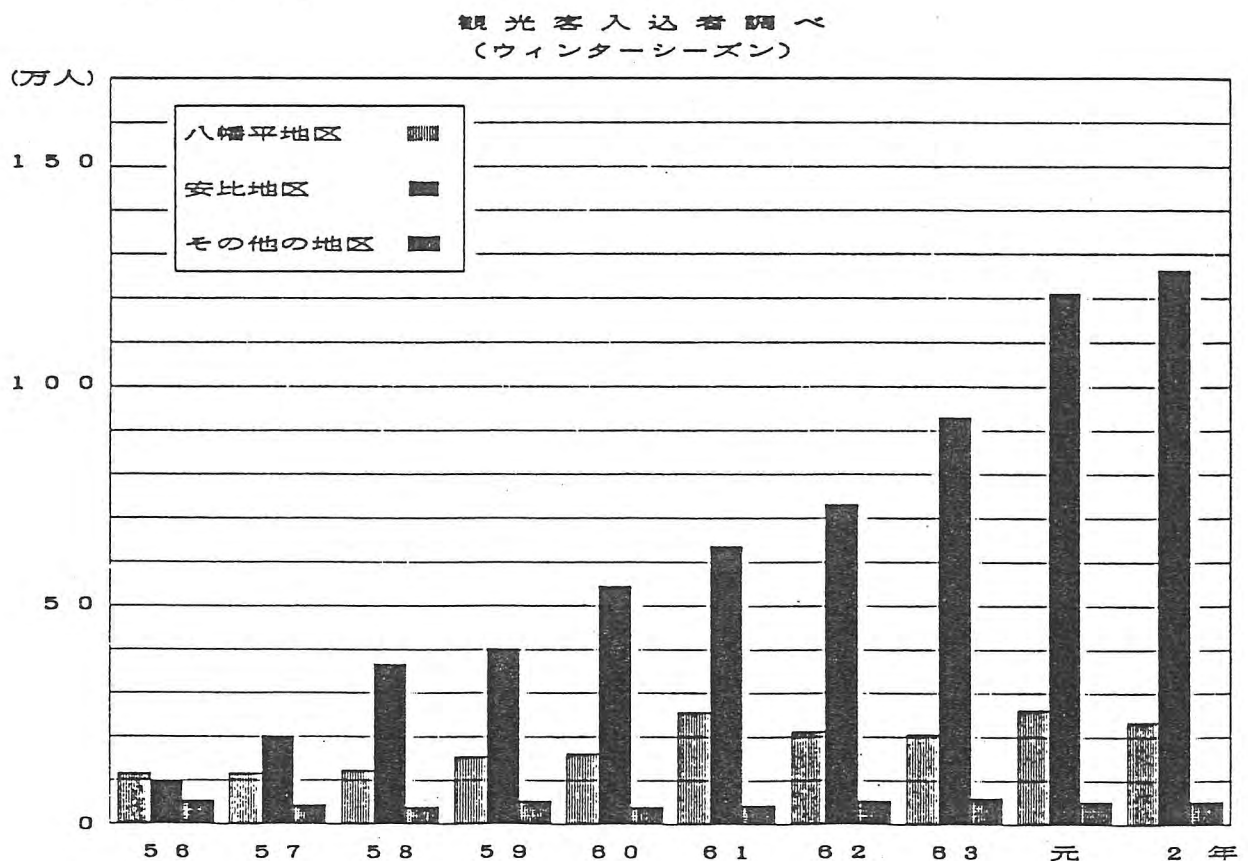
そこで、安比高原スキー場がオープンした昭和56年から平成2年度までの10年間の観光客の推移を調査し、森林レクリエーション対象者を分析することとした。

この調査は、安代町及び松尾村において、「八幡平地区」・「安比地区」・「安代町その他の地区」と区域別に調査し、時期においては、1月～4月及び11月～12月を「ウインターシーズン」、5月～10月を「サマーシーズン」に区別し、10年間の観光客の推移をグラフで表わし、各地区での森林レクリエーション対象者及びその特徴を把握しようとしたものである。

まず、「ウインターシーズン」における各地区を分析してみる。

八幡平及び安代町その他の地区が横ばいなのに対し、年々整備が進められている「安比高原スキー場」を核とする安比地区の伸びが目立つ。今シーズン「安比高原スキー場」は、8人乗りゴンドラを増設するなど施設の充実を図り、150万人の入込を目標として営業を展開している。

(グラフー1)



次に、主に森林インストラクター活動の対象となる、「サマーシーズン」におけるグラフを分析する。

地区別に比較すると、八幡平地区における入込者が多いのがわかる。

八幡平地区は、昭和31年に国立公園に指定され、昭和45年には、岩手・秋田両県にまたがる「八幡平アスピーテライン」が開通、昭和55年に「東北自動車道西根インター」の開通、昭和57年「松尾八幡平インター」の開通により交通体系が整備され、さらには、松尾村を中心に温泉旅館等の宿

泊施設も整っていたことから、この地位を不動のものとしている。

また、この地区は、わが国有数のアオモリトドマツの群落と、乾湿両様多種類の高山植物が群生している。そして、そこでは広大なフィールドを「歩く」ことを基本とした、森林レクリエーションが行なわれているため、その対象者は性別を問わず子供から大人まで幅広いものとなっている。愛らしい高山植物と雄大な景色を一度に楽しめるのも一つの特徴である。

一方、オールシーズンリゾートを目指し開発が進められる安比地区では、オートキャンプ場の整備計画が進められるなど、新しい形での森林レクリエーション施設が整備されるとともに、「イーハトーブトライアル」や「MTBミートinAPP I」等各種のイベントが行なわれ、全国へのリゾート発進基地としての地位を礎きつつある。

しかし、それらは対象者が限られているため、だれもが気軽に楽しめるまでには至っていない。そこで、平成2年から「10分間の森林教室」と題し夏場にゴンドラ営業を行ない、森林レクリエーション対象者の拡大を図っている。

また、同じく平成2年に、安比と兄川を結ぶ畜産振興を目的とした、「町道兄川線」が開通し、安比高原とそこに位置する広大なブナ林を横断する道路は、畜産の振興にとどまらず有効な観光資源となることが期待される。

今後、この地区では、自然との調和を重視した、だれもが気軽に楽しめる夏場のリゾート作りが期待される。

そして、森林レクリエーションとはあまり関係のない、安代町その他の地区とそのほとんどが森林レクリエーションの対象となる八幡平及び安比地区を比較した場合、森林レクリエーション対象地が観光客のほとんどをしめている。

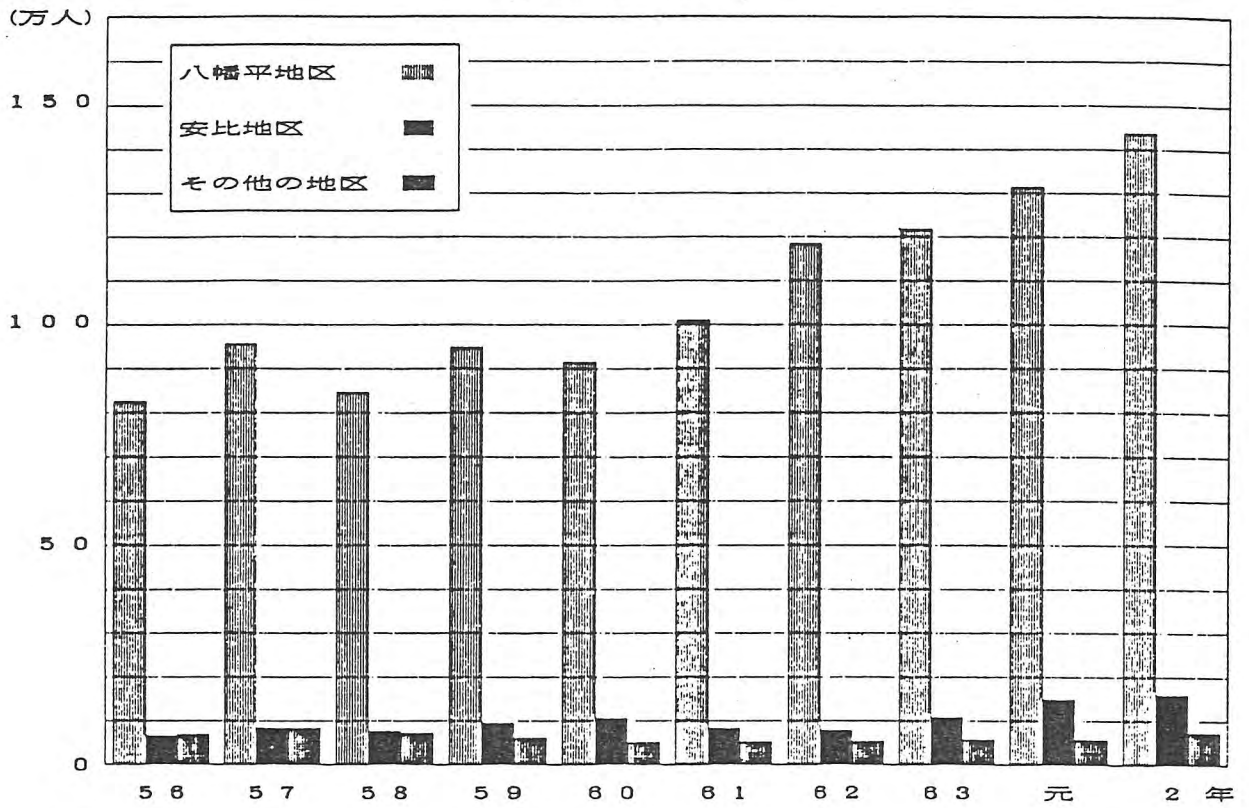
このことから「森林インストラクター制度」のシステム確立は急務であり国有林野事業への理解と信頼を得られる絶好のチャンスでもある。

### 3. 森林インストラクター要請

安比高原スキー場のふもとは、ホテル・ペンション・民宿・別荘等が立ち並びさらには、ディスコ・居酒屋・スナック等宿泊施設及び娯楽施設の充実が図られ、山の中に新しい街が形成されるに至っている。都会から安比へ移り住み、オールシーズンリゾートへ夢を託す、新たな山村住民の出現である。

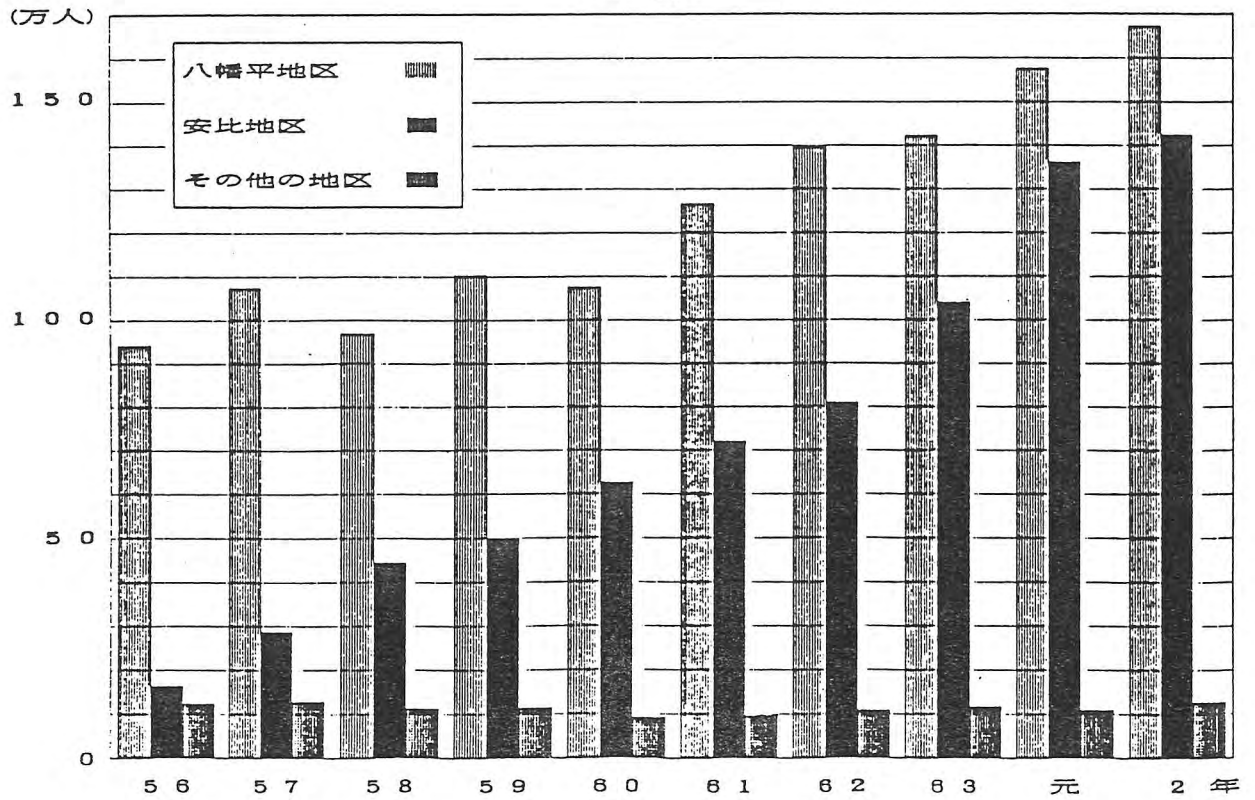
(グラフ-2)

観光客入込者調べ  
(サマーシーズン)



(グラフ-3)

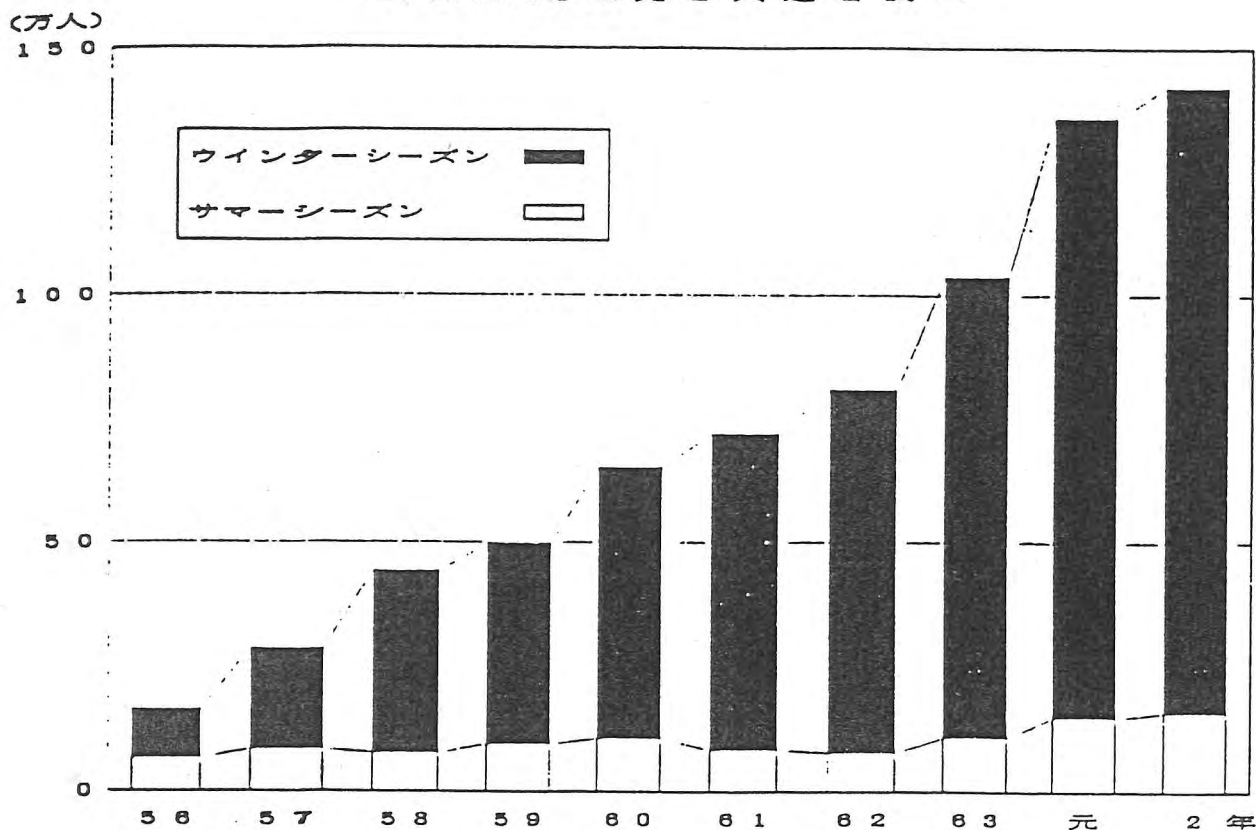
観光客入込者調べ  
(年間)



しかし、安比地区での観光客の入込者をグラフに表わすと、ウィンターシーズンに比べ、サマーシーズンにおける入込者が極端に少ないのがわかる。このことから、これらほとんどの施設は、冬場のスキー客だけにたよった経営となっているため、サマーシーズンにおける森林レクリエーションの活性化が期待されている。

(グラフ-4)

「安比地区」観光客入込者調べ



そこで、平成2年4月に「森林インストラクター制度」への要請がペンションオーナーの石坂氏よりよせられた。夏場の森林レクリエーションを自らが体験し、安比地区における夏場の森林レクリエーションの活性化を図ろうとするものである。オールシーズンリゾートに夢を託す人達にとって地域のことについて知りたいというのは、当然の理屈である。

これらの期待を受け、安代営林署の「森林インストラクター制度」はスタートした。森林インストラクターとして、新たな地域住民との交流の展開である。

都会から移り住んだ人々にとって、国有林への理解は薄く、実際に山へ行った場合、どんな方法で森林レクリエーションを楽しめるのかわからないのがほとんどである。そして、「森林インストラクター制度」を活用するに当たり、ペンションオーナーである石坂氏を中心に、ペンションオーナー・地

元小学校のPTA会長・リゾート開発会社の社員・ホテル従業員・駅員・写真館の人、それぞれ自然や開発に強い意識を持った人々が集まり「安比の原住民たち」という会が結成された。

また、安代営林署では、この会を中心に森林インストラクターを派遣し、参加者へのアンケート調査を行ない、「森林インストラクター制度」のシステム確立を目指すとともに、森林インストラクターとしての活動理念を得ることとした。

#### 4. 森林インストラクター出動

委託者である「安比の原住民たち」は、山に関する知識がほとんどなかったため、地元担当区である新町担当区主任がレクリエーションの企画及び設定を行ない実行することとした。レクリエーションの企画・設定に当たり、「歩く」ことを原則とし、次の4つにテーマを絞り、そして、それぞれの分野での精通者を森林インストラクターとして派遣することとした。

テーマ	地区	インストラクター
1 高山植物	八幡平地区	棟方 啓爾
2 安比高原	安比地区	葛西 貢治
3 山菜・きのこ	安比地区	伊藤 重志
4 登山	八幡平・安比地区	伊藤 重志

「安比の原住民たち」の依頼により、平成2年度から平成3年度まで9回にわたって行なわれたイベントの実行状況を紹介する。

##### (1回目)

イベント名 八幡平の高山植物を尋ねて  
 実施年月日 平成2年7月13日  
 実施時間 午前9時～午後2時(5時間)  
 実施場所 八幡平山国有林  
 内容 高山植物の定義、八幡平と植物帯、御花畑、高層湿原、植物の垂直分布、高山植物の開花期を説明。

参加者に観察カードを配付し、約70種類の高山植物を解説。

接写の仕方など写真撮影を指導。

参加者数 男性10名 女性5名 計15名  
参加者年令 最高令者72才 最年少者25才 平均年令47才  
インストラクター 棟方 啓爾

(2回目)

イベント名 八幡平の高山植物を尋ねて  
実施年月日 平成2年8月22日  
実施時間 午前9時～午後2時(5時間)  
実施場所 八幡平山国有林  
内 容 高山植物の解説約40種類と写真撮影の指導  
参加者数 男性6名 女性4名 計10名  
参加者年令 最高令者55才 最年少者25才 平均年令43才  
インストラクター 棟方 啓爾

(3回目)

イベント名 きのこの会  
実施年月日 平成2年10月12日  
実施時間 午前9時～午後1時(4時間)  
実施場所 安比岳国有林  
内 容 日本の茸の種類や岩手県における猛毒菌、そして、茸にまつわる迷信を解説。

きのこ狩りと昼食における野営指導。

参加者数 男性4名 女性4名 計8名  
参加者年令 最高令者55才 最年少者38才 平均年令49才  
インストラクター 伊藤 重志

(4回目)

イベント名 安比高原雪中行軍  
実施年月日 平成3年4月17日  
実施時間 午前10時～午後3時(5時間)  
実施場所 安比岳国有林  
内 容 安比高原の積雪をブナで調査。  
木の枝や幹、動物の足跡やカモシカの寒立ちの様子などを解説。

ブナの木の高さ約20mのところに、クマのねぐらを発見。

早春の固く締った雪上での企画で、夏場はササ地帯で行けないブナ壮令林を案内。

参加者数 男性4名 女性1名 計5名  
参加者年齢 最高令者55才 最年少者41才 平均年齢46才  
インストラクター 葛西 貢治

(5回目)

イベント名 高原の植物と黒滝探訪  
実施年月日 平成3年5月14日  
実施時間 午前9時～午後2時(5時間)  
実施場所 安比岳国有林  
内 容 安比高原の植物約20種類の解説と遷移についての説明  
安比高原近くの黒滝を見学。

参加者数 男性5名 女性5名 計10名  
参加者年齢 最高令者64才 最年少者25才 平均年齢45才  
インストラクター 葛西 貢治

(6回目)

イベント名 春の山菜教室  
実施年月日 平成3年5月22日  
実施時間 午前9時～午後1時(4時間)  
実施場所 鍋越山国有林  
内 容 春の山菜約15種類を解説及び採取。  
山菜の料理方法や昼食における野営指導。

参加者数 男性7名 女性7名 計14名  
参加者年齢 最高令者64才 最年少者38才 平均年齢47才  
インストラクター 伊藤 重志

(7回目)

イベント名 八幡平の高山植物を尋ねて  
実施年月日 平成3年6月18日  
実施時間 午前9時～午後2時(5時間)  
実施場所 八幡平国有林  
内 容 高山植物約40種類の解説及び写真撮影の指導。  
参加者数 男性8名 女性7名 計15名



参加者年令 最高令者64才 最年少者25才 平均年令47才  
インストラクター 伊藤 重志

(8回目)

イベント名 幻の草の湯を尋ねて  
実施年月日 平成3年8月1日  
実施時間 午前9時～午後2時(5時間)  
実施場所 八幡平国有林  
内 容 登山道袈部-八幡平ルートでの登山と自然湧出する温泉  
で湯花採取。

そして、高山植物観察。

参加者数 男性8名 女性6名 計14名  
参加者年令 最高令者64才 最年少者13才 平均年令48才  
インストラクター 伊藤 重志

(9回目)

イベント名 きのこの会  
実施年月日 平成3年10月23日  
実施時間 午前9時～午後1時(4時間)  
実施場所 鍋越山国有林  
内 容 きのこ狩りに関する基礎知識及び野営の指導。  
参加者数 男性7名 女性6名 計13名  
参加者年令 最高令者60才 最年少者13才 平均年令45才  
インストラクター 伊藤 重志

以上のようなイベントを企画・実行してきた。そして、各イベントにおいて参加者へのアンケート調査を行なった。

## 5. アンケート調査による分析

全9回にわたるイベントで104名の参加者があり、次の項目について回答をお願いした。

1. イベントの内容(企画・ルートの設定)について
2. 行動時間について
3. 料金について
4. インストラクターの指導方法について
5. インストラクターの印象について
6. その他意見・要望

## 7. 住所・氏名・年齢・職業

参加者のうち、82名より回答がよせられたので、その結果を分析する。  
分析にあたり、各項目にあらかじめ設定された回答を数字で表わすとともに、イベント企画において設定した「高山植物」・「安比高原」・「山菜・きのこ」・「登山」の4つのテーマにおいて参考意見を取りまとめた。

### 1. イベントの内容（企画・ルートの設定）について 〔設定項目による回答〕

ア. 良かった	81人	99%
イ. 悪かった		
ウ. どちらとも言えない	1人	1%

#### 〔参考意見〕

##### (1) 高山植物

- (ア) 高山植物の開花期に合わせたルートの設定が適確であった。
- (イ) 観察カード記入と写真撮影の組み合わせによる企画がとてもよかった。
- (ウ) 身近な自然に感動させられた。

##### (2) 安比高原

- (ア) 安比高原雪中行軍では、木の幹・枝の形・動物の足跡等目で楽しめる企画はすばらしい。
- (イ) 一番近くにいる者として、一番知りたいことが勉強できた。
- (ウ) 安比高原雪中行軍の企画には、NHK盛岡放送局及びIBCより取材の申請がよせられている。

##### (3) 山菜・きのこ

- (ア) 時期の設定が非常に良い。
- (イ) 山菜・きのこ狩りと、野営を組合わせたかざらない企画設定がよい。
- (ウ) とにかく楽しかった。

##### (4) 登山

- (ア) 季節の設定が良かったため、雨に見舞われたが楽しむことができた。

(イ) 山の厳しさを垣間見た感じがした。

(ウ) 単独では行けない場所であり、さらにルートを増やしてほしい。

## 2. 行動時間について

〔設定項目による回答〕

ア. 長い	7人	8%
イ. 足りない	17人	21%
ウ. ちょうど良い	58人	71%

〔参考意見〕

### (1) 高山植物

(ア) 1日コースと半日コースの設定が必要である。

(イ) 観察・写真撮影を考えれば短かいが、体力的には5時間が限度。

### (2) 安比高原

(ア) 対象地までの到達時間・観察時間とも適切である。

(イ) 1日コースでは体力的に苦しく、半日コースで回数を増やしてほしい。

### (3) 山菜・きのこ

(ア) 採取場所までの到達時間、そして野営での昼食準備時間に合わせた設定が適切であった。

### (4) 登山

(ア) 歩く距離が長すぎたため体力的にこたえた。

(イ) 悪天候のため特に長く感じた。

## 3. 料金について

〔設定項目による回答〕

ア. 高い	30人	37%
イ. 安い	5人	6%

ウ. ちょうど良い	33人	40%
エ. わからない	14人	17%

〔参考意見〕（全テーマに共通）

- (ア) 全イベントにおける参加者が平均10名程度だったので、ちょうど良いと思えるが、参加人数が少なすぎると1人当たりの料金が高くなる。
- (イ) 民間で行なうイベントは、参加者1人当たりの料金が基本となっているのに対しこの制度では、インストラクター1人当たりの料金になるのでなじめない。
- (ウ) 各イベント設定時間5時間で、1人当たり1500円から2000円が適切だと思う。
- (エ) 遠くから来る観光客にも紹介したいので、料金を安くしてほしい。

#### 4. インストラクターの指導方法について

〔設定項目による回答〕

ア. 適切である	77人	94%
イ. もう少し判りやすく	5人	6%
ウ. 判りにくい		

〔参考意見〕（全テーマに共通）

- (ア) 各分野において精通度が高く、知識の豊富さにおどろいた。
- (イ) 説明がこまやかで、初心者でも判りやすい。
- (ウ) ユーモアを交えながら「対話方式」での説明なので、打ちとけやすい。
- (エ) 指導力があり、山を楽しく歩くことを学んだ。
- (オ) 学術的な面においても判りやすいで説明なので、非常に勉強になった。

5. インストラクターの指導方法について  
〔設定項目による回答〕

7. 良い	75人	91%
イ. 悪い		
ウ. 普通	7人	9%

〔参考意見〕 (全テーマに共通)

- (ア) 人間味があり、親切・丁寧である。
- (イ) 役人的な所が全くなかった。
- (ウ) 参加者と一緒に楽しんでいるように感じられた。
- (エ) 山に関する知識の豊富さと経験の豊かさには、自信と強さが感じられた。
- (オ) 山を愛し、植物を愛し、積極的な行動力と親切な指導に好感が持てた。
- (カ) 人柄の良さが感じられ、安心して学ぶことができた。

6. その他意見・要望

- (ア) 参加者全員がインストラクターの回りにいれる状態であればよい。
- (イ) 登山の企画に際しては、アシストインストラクターが必要である。
- (ウ) 山菜の企画では、採取に使用する道具及び野営に使用する道具を準備していただく必要がある。
- (エ) 定期的にイベントを実施してほしい。
- (オ) 生態的な見地から体系的にイベントを企画し、年間計画を受講者へ周知させるような方策がほしい。
- (カ) 年間スケジュールを決め、安比を訪れたお客様が参加出来るイベントにしていきたい。
- (キ) 森林・林業さらには森林に住む動物などについても企画してほしい。
- (ク) このイベントを通じて、山に関心を持てるようになった、自然と人との関わりを考えさせられ、何か大事なものにつなが

る意味のあるものだと思う。

(ケ) 参加を重ねるうちに、営林署の仕事がすばらしいものに思えてきた。

(コ) 継続して行なってほしい。

#### 7. 参加者 (アンケート回答者)

(ア) 居住地	盛岡市	5名
	滝沢村	9名
	西根町	2名
	松尾村	13名
	安代町	53名
	(イ) 年 令	10代
	20代	5名
	30代	3名
	40代	44名
	50代	21名
	60代	7名
(ウ) 性 別	男 性	53名
	女 性	29名
(エ) 職 業	リゾート開発会社	11名
	ペンション経営者	49名
	自営業	5名
	会社員	15名
	学 生	2名

以上のようなアンケート結果を得たことで、2年間の活動における問題点を是正することにより、今後における「森林インストラクター制度」のシステム確立を目指す。

#### 6. 今後のインストラクター活動

今回のアンケート調査で、イベントの企画・設定については非常に良い結果であったように思える。今後は更に企画を増やし、年間を通じ、定期的に活動することにより更に参加者が増えることが期待される。

また、インストラクターの指導方法・印象については、「対話方式」での指導に心がけることとしたことが、非常に良い結果を生んでいる。しかし、系統的な人材を育成するには至っていない。森林・林業については、あらゆ

る面での知識を習得し、森林インストラクターとして実践していくためにはそれ相応の施設の開設が待たれる。

しかし、今回のアンケート調査で一番問題となっているのは受託料金である。過半数の人が「高い」、あるいは「わからない」と答えている。一般にイベント等に参加する場合、1人当たりの参加料が基本となっているのが通常である。受託料金などという役人くさい所が一番目立つのがこれである。国有林野事業への理解と分収育林販売など、国有林のPRを考えるのであれば、1人当たりの誰もが気軽に楽しめる価格設定が望まれる。

インストラクター1人で指導を行なえるのは、15名が限度である。そして、この15名参加から現行の受託料金を参加者1人当たり1時間の料金にすると400円となる。これを基本とした1人当たりの料金設定を提案する

そして、今回のアンケート調査で定期的な開催を望む声が多かったため、年間通じた「森林インストラクター制度」活用に関するパンフレット「自然流行説」を作成した。そして、このパンフレットの完成により、「森林インストラクター制度」におけるシステム確立に一步近づいたと言えるだろう。

## 7. 「森林インストラクター制度」に関するパンフレット

平成4年度より、このパンフレットに基づき定期的にイベントを開催して行きたいと思う。

このパンフレットを民宿・ペンション等に配付し、各種イベント実施期間に基づいて、定期的に月2回程度これらのイベントを開催して行くとともにそのほか一般の申込者に対しても実践して行くことを考えている。

## 8. おわりに

安代営林署がこれまでに行なった国有林のPR活動を目的としたイベント並びに、地元小学校を対象に行なった緑の教育サービスを合わせて紹介する

H2. 6. 9	「森のマドンナの誕生を観察する会」	一般参加	220名
H3. 9. 30	「ブナの四半世紀を見る集い」	一般参加	90名

このイベントは、ブナに関する基礎知識の普及と国有林野事業に対する一層の理解を得るために開催された。

また、地元小学校の要請に対する緑の教育、文化サービスとして

H2. 7. 29	「親と子の八幡平登山」	舘市小学校児童父兄	75名
H2. 8. 5	「親と子の八幡平登山」	畑小学校児童父兄	43名
H2. 9. 9	「八幡平クリーン作戦」	田山小学校児童	31名

H3. 5. 24	「全国緑化コンクール準特選受賞記念植樹体験」	細野小学校児童父兄	40名
H3. 7. 26	「細野、岩谷堂小学校交流会」	各小学校児童	54名
H3. 9. 8	「Let's Try 八幡平」	田山小学校児童	21名

これらに対して森林教室を行なっている

今回紹介した全イベントの参加者数は、延べ656人にも昇る。

また、「緑と水の森林基金」へ「安比の原住民たち」より3万円・「安比総合開発営業企画部」より2万円の寄贈が寄せられるなど、森林・そして国有林野事業に対する理解も深まっていると考えられる。

今後、益々森林レクリエーションの活性化が期待される八幡平地域総合森林レクリエーションエリアを抱える当署にとって、森林を舞台とした教育、文化サービスを行なわなければならないのは必至である。そして、近い将来東北新幹線各駅に森林教室の案内を掲示し、普段山へ入ることのない都会の人々を安比の山へ向かわせるのが当署の夢である。なぜならば、自然界の多様な構成物を識別、整理、蓄積して、知識や技術を新しい世代に伝えていく機会を作ることは、私達、森林、林業に携わる職員の義務だからである。



# 自然流行説

国有林「森林インストラクター制度」のご案内

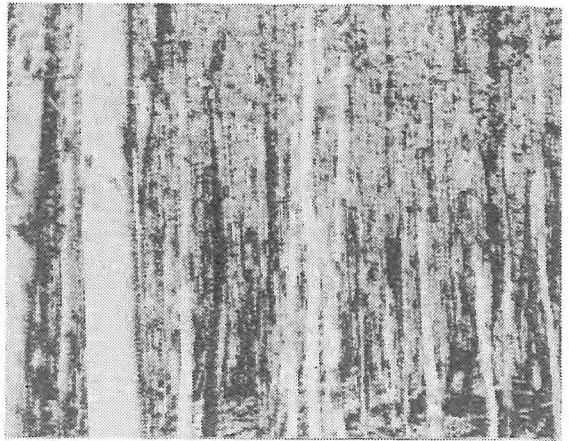


安代営林署

**森林は**、そこに住む鳥や獣たちのすみかであるとともに、生命の維持に欠かせない酸素を供給しているほか、私達の暮らしに限りない恵を与えてくれます。さらに、森林浴やピクニックなど、訪れる人に憩いと安らぎを与えてくれます。

その豊かな生命力で私達の生活を育んでくれる森林。私達は、暮らしを守る森林をもう一度大きな視点で見直していく必要があるのではないのでしょうか。

国有林野事業は、森林資源の培養に努めることにより、国土の保全その他森林の持つ機能の維持増進を図ることを目的として経営され、森林の重要性を認識してもらうために、森林インストラクターを派遣しPRに努めています。



安比高原「白いブナ林」



安比高原「中の牧場」

**安比高原は**、古くからこの地域で暮らす人々の生活文化でした。

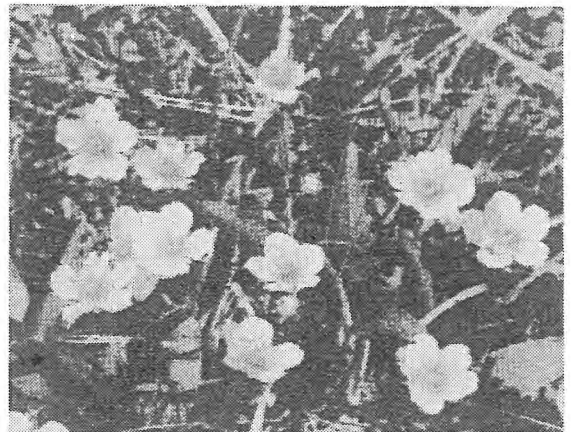
馬や牛を放牧するために森林を切り開き、この芝生の草原を作り上げました。地元の人々は昔から、この三箇所の草原を「奥の牧場」「中の牧場」「下の牧場」と呼んでいます。

また、安比高原周辺にはブナやミズナラを代表とした広大な森林地帯が広がっています。山村で暮らすこの地域の人々は、このブナやミズナラを伐採し、「薪」や「木炭」を生産したり、山に生える山菜や茸を採取したり、森林を上手に利用してきました。

ここでは、四季折々変化に富んだ自然の中で草花や樹木、昆虫を観察したり、スキーやキャンプなど思い思いに自然を楽しめます。

**高山植物とは**、(1)本来の成育地が高山帯にある植物。(高山帯に発生し、そこが生活の本拠地となっている植物)(2)氷河時代に氷河の南下とともにやってきて、現在まで高山帯に残っている植物。(3)山地帯や亜高山帯に生活の本拠をもつ植物でも環境に適応して、本来の高山植物にまじって生活している植物。厳密には(1)の植物をさすが、現在では、(2)(3)を含めて「高山植物」と呼んでいます。

八幡平地域は、1,613Mの山頂を中心に南は見返り峠、東は源太森までの広大な地域が比高差わずか20Mという平坦地となっていて、その大部分を高層湿原が占め、「尾瀬」、「八甲田」とともに本州における北寒帯湿性地植物分布において重要な意味を持っています。



高山植物「チングルマ」

安代営林署では、普段あまり山への馴染みがない方のために、次のようなイベントを企画し、森林インストラクターを派遣しています。

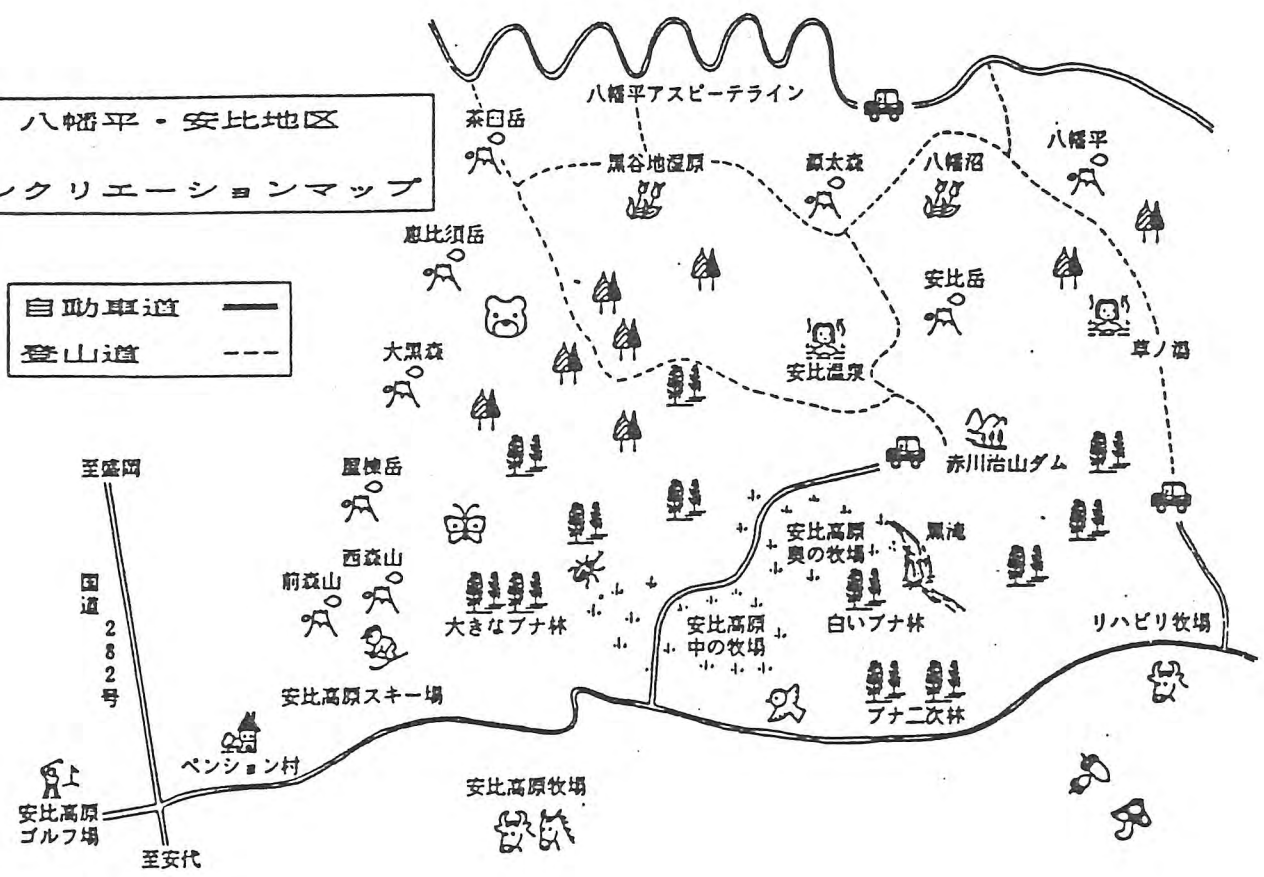
- A 「安比高原雪中行軍」  
春の日差しに照らされて固く締まった残雪は、お相撲さんが乗っても大丈夫？  
一足早く、高原の散歩を楽しみましょう。
- B 「春の山菜教室」  
長年、山で働いてきた営林署の職員です。穴場は知っています。昼食は、鍋をかこんで自然について語り合しましょう。
- C 「高原と芝生の散歩ツアー」  
きれいな水と澄んだ空気、そして広大な森林と草原の散歩を楽しみましょう。
- D 「八幡平の高山植物を尋ねて」  
カメラ片手に高山植物を観察してみませんか。自分流の植物図鑑ができるかも。
- E 「安比温泉と高層湿原ツアー」  
登山道を登ること1時間、秘湯「安比温泉」と安比岳の裾に広がる高層湿原観察。
- F 「八幡平-草ノ湯温泉ツアー」  
八幡平-雲部登山ルートでの初心者向け登山。そして、湯花の採取。
- G 「八幡平-安比温泉ツアー」  
八幡平-赤川登山ルートでの初心者向け登山。そして、露天風呂での入浴。
- H 「秋のきのこ教室」  
澄みきった空と、真っ赤に色づいた山々を眺めながらのきのこ狩り体験。

### 各種イベント実施期間

イベント名	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
安比高原雪中行軍			←→																			
春の山菜教室				←→																		
高原と芝生の散歩ツアー					←→																	
八幡平の高山植物を尋ねて							←→															
安比温泉と高層湿原ツアー									←→													
八幡平-草ノ湯温泉ツアー										←→												
八幡平-安比温泉ツアー											←→											
秋のきのこ教室																			←→			

八幡平・安比地区  
レクリエーションマップ

自動車道 ———  
登山道 - - -



時間設定

3時間コース	イベント記号	A, C, D
4時間コース	イベント記号	B, H
5時間コース	イベント記号	A, C, D, E
6時間コース	イベント記号	F, G

参加料金

一人、一時間あたり 400円 (小学生以下無料)

なお、E, F, Gのコースについては、アシストインストラクターが同行いたしますので料金を50%増しとさせていただきます。

イベント開催時期

各種イベント実施期間によるほか、ご相談に応じます。  
なお、お申し込みは5名様以上でお願いします。

お問い合わせ

028-75  
岩手県二戸郡安代町字家の裏20

安代営林署 総務課

電話 0195 (73) 2311  
FAX 0195 (73) 3205